

NETIS 登録申請書類の作成ポイント

※申請書類の作成にあたって留意点を記載していますので、参考として下さい。

九州技術事務所

◆申請書類作成の際のポイント◆

申請書類の作成の際のポイントは以下のとおりです。

- ①誰もが理解できるように専門用語をできるだけ使用しない。
どうしても使用せざるを得ない場合は、用語の説明を記載する。
- ②長々とした文章ではなく、簡潔かつ明確に記載する。
- ③実績や試験などで確認されたこと以上のことは記載しない。
特に、数値などについては、全て資料にて確認を行いますので、
誇大表示した記載は行わないで下さい。
- ④技術の原理などイメージ図等を添付すると分かり易い。
- ⑤経済性を比較するための内訳については、標準積算基準を参考とし、
従来技術も記載して下さい。標準積算基準にない技術については、
見積りを作成して下さい。

◆ 記載例 様式2の書き方のポイント ◆

● 新技術情報(様式2)の目的

開発目標や活用効果等の技術の特徴と共に、活用等における留意点を記述する。

記載例

新技術情報入力システム(建設版)

新技術情報					
技術名称	〇〇〇〇		開発年	2013	
副題	〇〇〇〇を〇〇〇〇L〇〇〇〇したもので、工期短縮、品質向上が図れる製品		区分	製品	
情報提供の範囲	国土交通省のみ	国土交通省以外の公的機関	*一般		
分類		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	分類1	コンクリート工	コンクリート工	鉄筋工	鉄筋工
	分類2	橋梁上部工	RC場所打ちホロースラブ橋工		
	分類3				
	分類4				
	分類5				
キーワード	安全・安心 *コスト縮減・生産性の向上 伝統・歴史・文化	環境 *公共工事の品質確保・向上 リサイクル	情報化 景観		
	自由記入	部材のユニット化			
開発目標	省人化 施工精度の向上 作業環境の向上 省資源・省エネルギー *その他(工期短縮)	省力化 耐久性の向上 周辺環境への影響抑制 *品質の向上	*経済性の向上 安全性の向上 地球環境への影響抑制 リサイクル性向上		

【技術名称】

- ・新技術の名称をフルネームで記述。
- ・技術名称は基本的に変更できないため、更新等も考慮する。
- ・他の商標登録又は既にNETIS登録された技術名称と同一でないか確認する。
- ・「新」を付けたり、型番や会社名を入れない。

【開発年】

- ・技術が確立した年とする。

【副題】

- ・技術名だけでは不明な技術内容を補完する内容とする。
- ・特に技術の「売り」になっている内容とする。

【区分】

- ・「製品」「材料」「工法」「機械」「システム」より選択。

【情報提供の範囲】

- ・一般を選択する。(国土交通省の職員のみ情報提供であれば「国土交通省のみ」を選択)

【分類】

- ・分類は分類1から分類5まで選択できるが、メインとなる工種を分類1とする。
- ・分類は全てを選択する必要はなく、該当工種のみを選択する。

【キーワード】

- ・最大3項目を選択し、活用の効果との整合を図る。
- ・自由記入は、様式2に記載された文言、語句の同意語があれば記述する。(3つ記入可能)

【開発目標】

- ・最大3項目を選択し、活用の効果との整合を図る。
- ・その他を選択の場合()内に内容を記述する。

◆ 記載例 様式2の書き方のポイント ◆

記載例

開発体制	*単独 (*産、官、学)	共同研 究 (産・産、産・官、産・学、産・官・学)							
	開発会社	〇〇(株)							
問合せ先	技術	会社	〇〇(株)						
		担当部署	開発設計部	担当者	福岡一郎				
		郵便番号	〒811-1100						
		住所	福岡県福岡市〇〇区〇〇1-2-3						
		TEL	092-111-2222	FAX	092-111-2223				
	E-MAIL	hukuoka@itirou.co.jp							
	URL	http://www.itirou.co.jp							
	営業	会社	〇〇(株)						
		担当部署	技術開発推進部	担当者	佐賀二郎				
		郵便番号	〒811-1100						
住所		福岡県福岡市〇〇区〇〇1-2-3							
TEL		092-111-2222	FAX	092-111-2223					
E-MAIL	saga@itirou.co.jp								
URL	http://www.itirou.co.jp								
問合せ先(その他)									
会社	担当部署	担当者	郵便番号	住所	TEL	FAX	E-MAIL	URL	

【開発体制】

- ・技術の開発された体制が単独か、共同開発かを選択する。
- ・開発会社は会社名、学校名(教授名共)、官公庁(所属部署共)等を全て記述する。
- ・開発者が複数の場合は「、」で区切って記述する。
- ・共同開発の場合、申請者以外の開発者からのNETIS登録の同意書が必要です。

【問合せ先】

- ・技術担当者は、技術と申請内容を一番理解された方として下さい。
- ・E-MAILアドレスは必ず記載し、半角で入力する。
- ・URLは取得していなければ記述不要とする。
- ・営業は、営業担当者もしくは記載内容を二番目に理解された担当者とする。

【問合せ先(その他)】

- ・共同開発者で、技術、営業にも記載されなかった担当者を記述する。
- ・協会や、各支店も記載可能であるが、住所、電話番号、担当者が変更された場合は、その都度、更新申請を行う必要がある。

◆ 記載例 様式2の書き方のポイント ◆

記載例

技術のアピールポイント(課題解決への有効性)
本製品は〇〇〇〇を〇〇〇〇L〇〇〇〇するもので、強度が向上し、ユニット化した事で軽量となり、工期の短縮及び品質の向上が図れる。

新規性及び期待される効果

①どこに新規性があるのか?(従来技術と比較して何を改善したのか?)
(売りを簡潔に記載する)
・〇〇〇〇を〇〇〇〇L〇〇〇〇したものである。
・〇〇〇〇をユニット化した製品である。

②期待される効果は?(新技術活用のメリットは?)
(上記の新規性から期待される効果を記載する)
・〇〇〇〇を〇〇〇〇にした事により、強度が増加し長期耐久性が期待できる。
・〇〇〇〇をユニット化し軽量になった事から、工期の短縮及び危険性を軽減できる。

新規性の写真およびイメージ図

新規性の写真

【技術のアピールポイント】

- ・従来技術の課題とされていた解決内容や、新技術の「売り」を箇条書きにする。
- ・記述文字数が全角で127文字以内で収める。

【どこに新規性があるのか?】

- ・従来技術との違い(新しい技術)を簡潔に記述する。
- ・その他複数にあれば「・」で区切って簡潔に記述する。

【期待される効果は?】

- ・上記の新規性に対して、具体的なメリット等を箇条書きに記述する。
- ・写真及びイメージ図は新規性で記載した内容が確認できるものとする。

※開発、コンセプトに至った経緯や、メリットの詳細、説明の必要がある着目点などは
③その他、追記、詳細、等の見出しを作成し、そこに文字数の許す範囲で記述する。

◆ 記載例 様式2の書き方のポイント ◆

記載例

適用条件

- ①自然条件
(気温や気象条件を記載する)
・外気温で4℃～40℃
- ②現場条件
(作業スペースや支障物件の制約条件を記載する)
・作業スペースとして5m×10m程度必要
- ③技術提供可能地域
(全国もしくは地域を記載する)
・全国
- ④関係法令等
(法令上厳守しなければならない条件を記載する)
・特になし

適用範囲

- ①適用可能な範囲
(施工量、規模、適用箇所等を記載する)
・コンクリート床版工
- ②特に効果の高い適用範囲
(特に効果の高い条件を具体的に記載する)
・工期短縮を期待する現場
・床版幅員が〇〇mを超える現場
- ③適用できない範囲
(適用できない条件を具体的に記載する)
・プレテンション桁、ポストテンション桁
- ④適用にあたり、関係する基準およびその引用元
(一般的に使用されている仕様書や基準類を記載する)
・道路標示方書・同解説 平成24年3月 II 鋼橋編 〇〇章 〇〇〇

【自然条件】

- ・気温や気象条件等に関する制約を記述する。
- ・記述事項がない場合は「特になし」とする。

【現場条件】

- ・作業スペースや支障物件等の制約条件。
- (記述例) 作業スペースとして〇〇m×〇〇m程度必要、使用機械の大きさ〇〇m×〇〇m

【技術提供可能範囲】

- ・新技術を適用できる地域について、具体的な都道府県名又は地区と簡単な理由を記述する。
- ・制約がない場合は「全国」とする
- (記述例) 九州地区限定(製品の製作工場が九州であるため)

【関係法令】

- ・法令上厳守しなければならない条件。
- ・労働安全衛生法等は特に記述しない。
- (記述例) 大量に保管する場合は各消防署への届け出が必要となる。
- ・記述事項がない場合は「特になし」とする。

【適用可能な範囲】

- ・施工量、規模、対象土質、対象工種等。
- ・実績や試験などで確認できる範囲とし、誇大標示は行わない事。

【特に効果の高い適用範囲】

- ・適用可能な範囲で特に効果の高い条件を具体的に記述する。
- ・技術のアピールポイントと整合するように記述する。

【適用できない範囲】

- ・適用できない理由を具体的に記述する。
- ・記述事項がない場合は「特になし」とする。

【適用にあたり、関係する基準および引用元】

- ・技術の活用の際に関係する準拠及び引用された指針、示方書、基準類等があれば記述する。
- ・発行年、発行元、項目、項数も記述する。
- ・協会等のマニュアル等は記述する必要はない。
- (記述例) コンクリート標準示方書 2012 (社)土木学会
- ・記述事項がない場合は「特になし」とする。

◆ 記載例 様式2の書き方のポイント ◆

記載例

留意事項

①設計時

(設計者に留意してもらいたい内容を記載する)

・コンクリート標準示方書を準拠した設計となる。

②施工時

(施工者に留意してもらいたい内容を記載する)

・製品を高所から落下させる等の強い衝撃を与えない。

③維持管理等

(維持管理上留意してもらいたい内容を記載する)

・特になし

④その他

(その他留意する内容を記載する)

・特になし

【設計時】

・設計時または技術の活用を検討する際に留意する事があれば記述する。

・一般的な内容ではなく、この技術に特化した内容を記述する。

(記述例) コンクリート標準示方書を準拠した設計となる。

・記述事項がない場合は「特になし」とする。

【施工時】

・施工時に留意してもらいたい内容を記述する。

・一般的な内容ではなく、この技術に特化した内容を記述する。

(記述例) 製品の設置においては「施工マニュアル」に従い施工する。

製品を高所から落下させる等の強い衝撃を与えない。

・記述事項がない場合は「特になし」とする。

【維持管理等】

・施工者及び管理者にどういった点を維持管理、点検するかを記述する。

・この技術(材料など)を保管中に留意する点があれば記述する。

(記述例) 製品保管中は雨風のあたらないようにシート等で養生する。

製品の積み重ねは3段までとする。

・記述事項がない場合は「特になし」とする。

【その他】

・上記以外に留意する内容があれば記述する。

・納入に期間が必要な場合は、任意の数量に対する時期の目安を記述する。

・特殊機械などの保有台数及び保有場所を記述する。

(記述例) 材料の保証期間として1年であるため、使用に留意する。

・記述事項がない場合は「特になし」とする。

◆記載例 様式2の書き方のポイント◆

記載例

活用の効果				
比較する従来技術		□□□□□		
項目	活用の効果		比較の根拠	
経済性	*向上(10%)	同程度	低下(%)	従来技術と比較して、製品費は高価となるが、施工費が安価となる。
工程	*短縮(50%)	同程度	増加(%)	従来技術と比較して、製品のユニット化で短縮が可能となる。
品質	*向上	同程度	低下	従来技術と比較して、強度が向上し、長期耐久性が期待できる。
安全性	*向上	同程度	低下	従来技術と比較して、製品が軽量で施工時に手を挟み込む恐れがなくなる。
施工性	*向上	同程度	低下	従来技術と比較して、製品のユニット化で作業効率が向上する。
周辺環境への影響	向上	*同程度	低下	(同程度であれば記載はしない)
コストタイプ	並行型:B(+型)			

【比較する従来技術】

・概要②で記述した従来技術と表現を合わせる。

★各項目とも同程度以外の場合に「比較の根拠」を記述する(同程度の場合は記述しない)
★比較の根拠は、文頭に「従来技術と比較して……」と記述する。

【経済性】

・(記述例) 従来技術と比較して、製品費は高価となるが、施工費が安価となる。

【工程】

・(記述例) 従来技術と比較して、製品のユニット化で短縮が可能となる。

【品質】

・(記述例) 従来技術と比較して、強度が向上し、長期耐久性が期待できる。

【施工性】

・(記述例) 従来技術と比較して、製品のユニット化で作業効率が向上する。

【周辺環境への影響】

・(記述例) 従来技術と比較して、騒音・振動が低減できる。

【コストタイプ】

・コストタイプの「損益分岐型:A」「並行型:B」「発散型:C」「サイクルコスト型:D」の「+、-」「I、II」を選択する。なお、Dタイプを選択の場合は別表に10年後までのコストを入力する。

◆記載例 様式2の書き方のポイント◆

記載例

活用の効果の根拠

基準とする数量	100	単位	m ²
	新技術	従来技術	変化値(%)
経済性	374500 円	399400 円	6.23 %
工程	1 日	2 日	50 %

変化値：マイナスの場合は、低下を示す。

【活用の効果の根拠】

- ・基準とする数量は、通常施工される数量とし、一式としない。(切りの良い数量とする)
- ・工程は基準とする数量が施工可能な日数を入力。
- ・工程は必ず日数を入れる。(0日とはしない)
(日数の根拠資料が必要です)

●新技術の内訳

項目	仕様	数量	単位	単価(円)	金額(円)	摘要
製品費(〇〇〇-A)	L=〇〇〇mm、H=〇〇mm、W=〇〇mm	100	m	600	60000	見積り
一般世話役		1.8	人	18300	32940	見積り
特殊作業員		1.8	人	17000	30600	見積り
普通作業員		1.8	人	14500	26100	見積り
クローラークレーン 運転	〇〇t	1.8	日	121500	218700	見積り
諸雑費	(労務+機械)×〇%	1	式	6160	6160	

合計:374500 円/100 m² あたり

●従来技術の内訳

項目	仕様	数量	単位	単価(円)	金額(円)	摘要
製品費	L=〇〇〇mm、H=〇〇mm、W=〇〇mm	100	m ²	500	50000	建設物価
一般世話役		2	人	18300	36600	標準積算
特殊作業員		2	人	17000	34000	標準積算
普通作業員		2	人	14500	29000	標準積算
クローラークレーン 運転	〇〇t	2	日	121500	243000	標準積算
諸雑費	(労務+機械)×〇%	1	式	6800	6800	

合計:399400 円/100 m² あたり

【新技術・従来技術の内訳】

- ・項目は施工費まで含めて詳細に記述する。(例えば施工費は労務費、機械経費等を分けて記述する)
- ・仕様は可能な限り詳細に記述する。
- ・数量は基準とする数量、又は対象となる数量を記述する。
- ・摘要には見積り対応なのか、標準積算、協会歩掛等を明確にする。又、対象数量の計算を入れる事も可能です。

◆記載例 様式2の書き方のポイント◆

記載例

施工単価

(活用の効果で積算された条件を具体的に記載する)

積算条件

- ・コンクリート床版で幅員〇〇m、延長〇〇mを想定
- ・クレーンは〇〇t吊を使用する
- ・労務単価は平成25年度福岡県を採用し、建設物価は平成25年度2月を採用

製品単価(m²当り)

製品名	製品単価(標準品)	製品単価(特殊品)
〇〇〇-A	600	800
〇〇〇-B	700	900

歩掛り表あり(標準歩掛 , 暫定歩掛 , 協会歩掛 , *自社歩掛)

【施工単価】

- ・活用の効果で積算された条件を具体的に記載する。
- ・積算された地域、年月及び使用した参考資料の採用月を記述する。
- ・施工条件等により価格が変わる場合は、一般的な施工条件で、標準的な規模で施工した場合の施工条件及び単価等を記述する。
- ・経済性でコスト縮減がある場合は、その効果が現れる適用範囲を記述する。

【単価表】

- ・新技術の単価及び損料等がわかるような記述とする。
- ・製品等で各バリエーションの製品単価を記述しても構わない。
- ・施工条件等により価格が変わる場合は、一般的な施工条件で、標準的な規模で施工した場合の施工条件及び単価等を記述する。

【歩掛り表あり】

- ・該当するものを選択する。
- ※標準歩掛とは、国土交通省土木工事標準積算基準書・市場単価等である。
- ※暫定歩掛とは、「公共工事等における新技術活用システム」実施要領に基づく新技術の暫定歩掛である
- ※協会、自社歩掛の場合は、歩掛が分かる資料を添付する。

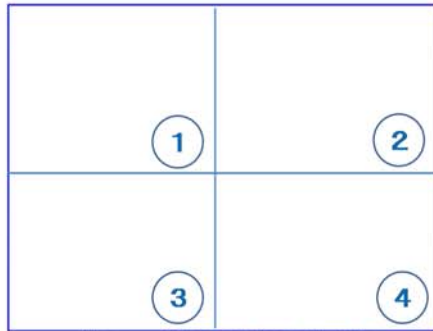
◆記載例 様式2の書き方のポイント◆

記載例

施工方法

(具体の施工方法を簡潔に記載する)

- ①準備工
- ・○○○○○
- ②〇〇工
- ・○○○○○
- ③〇〇工
- ・○○○○○
- ④〇〇工
- ・○○○○○



施工フロー図(上記の番号と整合させる)

【施工方法】

- ・具体の施工方法を簡潔に記述する。
- ・①、②、③のように作業工程を順序よく記述する。
- ・施工フロー写真およびイメージ図を活用し作業工程の確認できるものとし、番号を整合させる。
- ・従来技術と大きく作業工程が変わるようであれば、フロー図を利用し違いを明確にする。
- ・施工機械等があれば名称と規格も記述する。
- ・付属製品等があれば使用数量等も記述する。

記載例

残された課題と今後の開発計画

①今後の課題

(改善する課題があれば記載する)

- ・更なる軽量化に向けた改良

②対応計画

(対応計画があれば記載する)

- ・検討中

【今後の課題】

- ・今後、改善する課題があれば記述する。
- (記述例) 更なる軽量化に向けた改良。
- ・記述事項がない場合は「特になし」とする。

【対応計画】

- ・今後の課題での対応策を記述する。
- (記述例) 検討中
- ・記述事項がない場合は「特になし」とする。

◆ 記載例 様式2の書き方のポイント ◆

記載例

実績件数		
国土交通省	その他公共機関	民間等
1件	1件	1件

【実績件数】

- ・実績件数は、国土交通省、その他の公共機関、民間別に件数を入れる。
- ・開発年と関連性を付けた実績とする。

国土交通省における施工実績						
工事名	事業種類	地方整備局名	事業所名	施工開始	施工終了	CORINS登録NO.
福岡〇号〇〇橋床版工工事	一般工 事	九州地方整備局	福岡国道事務所	2012/04/01	2013/02/28	1234567

【国土交通省における施工実績】

- ・実績は正式な工事名がわかる工事のみを記述する。
- ・事業種類は一般工事を選択する。
- ・施工開始、終了は工事の全体工期の日付を記述する。
- ・CORINS番号は確認して記述する。(全て公共工事には番号があります)
- ・業務実績の場合はTECRISの番号を記述する。
- ・実績は最大20件まで記述可能。

国土交通省以外の施工実績					
工事名	発注者(種別)	発注者(事務所)	施工開始	施工終了	CORINS登録NO.
県道〇〇号〇〇橋改良工工事	公共機関	福岡県〇〇土木事務所	2012/05/10	2013/02/10	3456789
九州道〇〇橋補修工工事	民間	NEXCO西日本(株)	2012/04/20	2013/02/20	

【国土交通省以外の施工実績】

- ・その他の公共機関は区市町村、独立行政法人での実績とする。
- ・実績は正式な工事名がわかる工事のみを記述する。
- ・発注者(種別)は「公共機関」「民間」を選択する。
- ・発注者(事務所)は各自治体の事務所まで記述する。
- ・発注者(事務所)で民間の場合は〇〇建設(株)等を記述する。
- ・施工開始、終了は工事の全体工期の日付を記述する。
- ・CORINS番号は確認して記述する。(全て公共工事には番号があります)
- ・民間にはJR、NEXCO等も含む。
- ・民間の実績で個人の場合は名称を〇〇に変更しても構いません。
- ・実績は最大20件まで記述可能。

◆記載例 様式2の書き方のポイント◆

記載例

特許・実用新案		
種類	特許の有無	
特許	有り	出願中
	出願予定	*無し
	特許番号	
	特許番号	特許第〇〇〇〇〇〇 (〇〇〇〇施工法)
	実施権	通常実施権 専用実施権
	特許権者	〇〇〇(株)
	実施権者	〇〇〇(株)
	特許料等	なし
	実施形態	
	問合せ先	〇〇〇(株)092-111-2222
実用新案		
	特許の有無	
	*有り	出願中
	出願予定	無し
	特許番号	第〇〇〇〇〇〇(〇〇〇〇)
	実施権	通常実施権 専用実施権
備考	商標登録 第〇〇〇〇「〇〇〇〇」	
第三者評価・表彰等		
	建設技術審査証明	建設技術評価
証明機関		
番号		
証明年月日		
URL		
	その他の制度等による証明	
制度の名称		
番号		
証明年月日		
証明機関		
証明範囲		
URL		
	評価・証明項目と結果	
証明項目	試験・調査内容	結果

【特許】

- ・特許の「有り」「出願中」を選択し、ない場合は選択をしない。
- ・特許の「有り」「出願中」を選択した場合は、特許情報に特許番号又は出願番号を記述し特許及び出願の名称を()で記述する。
- ・特許出願予定は特許情報に出願予定と記述する。
- ・特許取得の場合、実施権を選択し、特許権者、実施権者、特許料、問合せ先も記述する。
- ・特許権者が複数の場合、申請者以外の同意書を添付する。
- ・特許料は、製品代に含まれる場合は「なし」とし、製品代以外に特許料が必要な場合は特許料金を記述する。

【実用新案】

- ・実用新案の「有り」「出願中」「出願予定」「無し」を選択する。
- ・実用新案の取得及び出願中の場合は番号を記述し、名称を()に記述する。
- ・実用新案取得の場合は、実施権を選択する。

【備考】

- ・その他意匠登録や商標登録があれば、番号と名称を記述する。

【第三者評価・表彰等】

- ・「建設技術審査証明」や「建設技術評価」等を取得されている場合に記述する。
- ・証明等が有効期限切れや、証明が範囲外であれば記述できないものとする。
- ・その他の制度等(他省庁の行っている制度)による証明や表彰をされた場合に記述する。

【評価・証明項目と結果】

- ・「建設技術審査証明」等の代表的な項目と結果を記述する。

◆記載例 様式2の書き方のポイント◆

記載例

実験等実施状況

(効果、機能の確認できる実験結果を記載する)

①〇〇〇の強度試験

・試験実施日:平成〇〇年〇〇月〇〇日

・試験場所:〇〇〇〇試験センター

・目的:〇〇において〇〇〇の強度を満足している事の確認する

・試験方法:JIS 〇〇〇〇〇に準拠した試験方法

・規格値:〇〇〇以上

・試験結果:最大値〇〇〇、最小値〇〇〇、平均値〇〇〇で規格値を満足している事が確認できた。

	〇〇〇強度(N/mm2)	規格値	備考
番号		〇〇N/mm2以上	
①	〇〇		
②	〇〇		
③	〇〇		
④	〇〇		
⑤	〇〇		
⑥	〇〇		
⑦	〇〇		
最大値	〇〇	合格	
最小値	〇〇	合格	
平均値	〇〇	合格	

試験状況写真

〇〇〇の強度試験状況

【実験等実施状況】

- ・技術の成立性、効果、機能の確認できる実験結果を記述する。
- ・技術の効果、成立性について、最低限必要な事を記述する。
- ・日付、場所、目的、実験方法、結果、考察等を明確に記述する。
- ・記載されている結果が、従来技術あるいは技術基準と比較した記述とする。
- ・試験結果等は表や写真を利用し表現する事もできる。

◆記載例 様式2の書き方のポイント◆

記載例

添付資料

(様式3と整合させる)

添付1:積算資料
 添付2:〇〇確認試験報告書
 添付3:施工実績一覧表
 添付4:〇〇圧縮試験成績表
 添付5:リーフレット
 添付6:現況写真状況
 添付7:使用材料ミルシート
 添付8:〇〇工事の品質管理資料
 添付9:〇〇工事の出来形管理資料
 添付10:比較工程表
 添付11:〇〇〇〇施工マニュアル
 添付12:安全データシート

参考文献

(参考とした論文等があれば記載する)

その他(写真及びタイトル)



施工事例(国土交通省)



施工事例(NEXCO西日本)

【添付資料】

- 様式3の添付資料名と整合させる。
- ここに記入する資料は、NETIS閲覧者の申し立てに、提供できるものとする。

【参考文献】

- 添付資料以外のもので、開示提供できない資料または申請する新技術において参考にした文献を記述する。

【その他(写真及びタイトル)】

- 施工事例などを添付する。

◆ 記載例 様式3 ◆

【区分】 レベル1-レベル2		技術詳細説明資料								様式3									
技術の名称	○○○○			比較対象とする従来技術				技術名称	□□□□□□										
開発会社名	株式会社▲▲▲							選定理由	コンクリート床版工において一般的な方法である										
NETIS登録番号	□登録済み・登録番号[] ■未登録																		
申請先の地方整備局	九州地方整備局 九州技術事務所																		
分類	〔レベル1:○○○○ 〕、〔レベル2:○○○○ 〕、〔レベル3:○○○○ 〕、〔レベル4:○○○○ 〕																		
使用可能な工事の種類	コンクリート床版工事			その他															
【記載の留意点】 ・技術名称:様式2で記述した名称と同じ名称とする。 ・開発会社名:様式2の原開発会社の項目に記述した会社名を全て記述する。 ・NETIS登録番号:新規の場合は未登録にチェックを入れる。 ・申請先の地方整備局:整備局名と技術事務所名を記述する。 ・分類:様式2の分類1を記述する。 ・使用可能な工事の種類:様式2の概要「④公共工事のどこに適用できるか」で記述した内容を記述する。								【記載の留意点】 ・技術名称:様式2の活用効果で比較する従来技術とした名称を記述する。 ・選定理由:二の技術を従来技術として挙げた理由を箇条書きに記述する。 (記述例:標準積算基準書に記述されている技術とした)											
評価項目		申請者記入欄									備考								
大	中	小	従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較<結果>	従来技術積算条件	申請技術積算条件	申請技術の積算方法	添付資料名・番号 (根拠データ等)	従来技術引用元									
経済性	イニシャルコスト	100㎡当り	100,000 円/100㎡	90,000 円/100㎡	10%向上	○○○○の床版工事	○○○○の床版工事	自社見積り算出	添付1:積算資料	参考1:土木コスト情報2012巻									
	ランニングコスト	---	---	---	---	---	---	---	---	---									
	その他	---	---	---	---	---	---	---	---	---									
	トータルコスト	100㎡当り	100,000 円/100㎡	90,000 円/100㎡	10%向上	---	---	---	---	---									
		【記載の留意点】 ・様式2の基準となる数量等を記述する。 ・ランニングコストが算出できればランニングコスト欄に10年後等を記述する。 ・トータルコストは上記の合計金額を記述する。 ・ランニングコストで記述がなければ「-」とする。		・様式2の従来技術の金額を記述する。 ・ランニングコストが算出できれば金額を記述する。 ・トータルコストは上記の合計金額を記述する。 ・ランニングコストで記述がなければ「-」とする。		・様式2の新技術の金額を記述する。 ・ランニングコストが算出できれば金額を記述する。		・様式2の新技術と従来技術の差額を記述する。 ・○○%向上又は○○%低下の記述となり、同程度の場合は同程度とする。		・従来技術を積算された条件を記述する。 ・具体的な条件を記述する。		・新技術を積算された条件を記述する。 ・具体的な条件を記述する。		・新技術の積算方法のよう算出したかを記述する。 (例) ・自社見積 ・自社歩掛 ・監査歩掛 ・標準積算等		・添付番号、資料名を記述する。 ・種別物価等を採用の場合は年、号・項が分かるように記述する。また、従来技術の積算内訳資料も一緒に添付する。		・従来技術の積算に引用した条件集を参考資料として添付し、番号、資料名を記述する。	
大	中	小	①現行基準等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (根拠データ等)	⑧基準等の引用元	備考								
安全性	構造	製品の売りを記載 (技術の成立性等の内容とする)	---	---	○○が○○していることを確認	向上 (従来は○○や○○の恐れがある)	○○の確認試験より	○○工業試験場	添付2:○○確認試験報告書	---									
	【記載の留意点】 大、中項目はさわらないようにする。	・技術の売りを記載 (技術の成立性等の内容とする)	・参照した基準等があれば数値やコメント等を記述する。 ・再現した数値がなければ「-」とする。	・②の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 ・①が「-」の場合は「-」とする。	・実験や実証で確認された数値やコメント等を記述する。 ・記述内容は添付資料の内容と一致させる。 ・様式2の「活用の効果」で向上となっている項目(品質、安全性、施工性)の裏付けを記述する。	・従来と比較して「(向上・同等・低下)を記述し、理由()」に記述する。	・③の数値等が確認された条件や環境等を記述する。	・②の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で参照した資料のコードを参考資料として添付し、番号、資料名を記述する。 ・添付のコードは裏紙も含めて添付する。									
※労働安全衛生上の安全性等は含まない。		施工段階	作業員事故の発生	土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」	適合	事故なし	同等	○○工事他○件の施工実績より	自社確認	添付3:施工実績一覧表	参考2:土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」								
	【記載の留意点】 大、中項目はさわらないようにする。	・現場の施工がある場合に作業員事故の有無を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」の他対象の意を記載する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・③で事故なしであれば適合とし、事故があれば不適合とする。 ・①で「-」であれば「-」とする。	・事故なし又は事故ありを記述し、事故ありは理由を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・従来と比較して「(向上・同等・低下)を記述し、理由()」に記述する。	・③の記法が確認された施工実績の件数を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・施工実績を確認されている社名等を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①の土木工事安全施工技術指針の対象の意をコードし参考資料として添付し、番号、資料名を記述する。									
※骨格工については施工段階の安全性は含まない。		第三者事故の発生	土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」	適合	事故なし	同等	○○工事他○件の施工実績より	自社確認	添付3:施工実績一覧表	参考2:土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」									
	【記載の留意点】 大、中項目はさわらないようにする。	・現場の施工がある場合に第三者事故の有無を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・土木工事安全施工技術指針「第1章総則、第2章安全措置一般」の他対象の意を記載する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・③で事故なしであれば適合とし、事故があれば不適合とする。 ・①で「-」であれば「-」とする。	・事故なし又は事故ありを記述し、事故ありは理由を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・従来と比較して「(向上・同等・低下)を記述し、理由()」に記述する。	・③の記法が確認された施工実績の件数を記述する。 ・現場施工がない場合は「-」とする。	・施工実績を確認されている社名等を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①の土木工事安全施工技術指針の対象の意をコードし参考資料として添付し、番号、資料名を記述する。									

◆ 記載例 様式 3 ◆

評価項目			申請者記入欄							備考
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (模範データ等)	⑧基準値等の引用もと
耐久性	物性	製品強度	〇〇N/mm ² 以上	適合	平均値〇〇N/mm ²	向上 (従来は〇〇N/mm ² 程度)	自社工場による〇〇〇の強度試験による	自社確認	添付4: 〇〇圧縮試験成績表	参考3: H24道路標示方書・解説P〇〇
	大、中項目はさわらないようにする。	・強度や特性が確認できる項目とする	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。 ・準拠した数値等がなければ「-」とする。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 ・①が「-」の場合は「-」とする。	・実験や実証で確認された数値やコメントを記述する。 ・記述内容は添付資料の内容と整合させる。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。 ・様式2の品質が向上となっていれば整合させる。	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。 ・様式2の品質が向上となっていれば整合させる。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。 ・添付のコピーは表紙も含めて添付する。
	形状	標準形状	---	---	幅: 〇〇mm 長さ: 〇〇mm 高さ: 〇〇mm	比較対象外	リーフレット	自社確認	添付5: リーフレット	---
	大、中項目はさわらないようにする。	・概観の形状や重量等を記述する	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・リーフレット等で確認された数値やコメントを記述する。 ・記述内容は添付資料の内容と整合させる。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。 ・従来に該当しないようであれば「比較対象外」とする	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
	能力	機能維持	〇〇年以上(自社基準)	適合	〇〇年〇〇ヶ月経過後も機能を維持している事が確認	同等	〇〇工事の現況状況写真	自社確認	添付6: 現況状況写真	参考4: 〇〇〇品質マニュアル
	大、中項目はさわらないようにする。	・耐久性(継続的、長期的)を確認できる項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・耐久性(継続的、長期的)で追跡調査等の結果や、現況の状況を確認できる内容を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
品質・出来形	材料	使用材料(〇、■、■)	---	---	〇〇の材質: 〇〇〇〇 ■の材質: 〇〇〇〇	比較対象外	材料ミルシート	〇〇商事 ■建設	添付7: 使用材料ミルシート	---
	大、中項目はさわらないようにする。	・使用されている主材料の品質を確認できる項目とする	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・主材料の品質が確認できる内容を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された条件や規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
	施工	〇〇の管理	〇〇である事の確認(自社基準)	適合	〇〇である事を確認	同等	〇〇工事の品質管理資料	〇〇建設	添付8: 〇〇工事の品質管理資料	参考4: 〇〇〇品質マニュアル
	大、中項目はさわらないようにする。	・施工中に行わなければならない品質管理等の項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・実際に管理した内容、数値等を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された工事名や条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された社名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
	完成物	出来形管理	〇〇mm以内	適合	最大値が〇〇で〇〇以内である事が確認	同等	〇〇工事の出来形管理資料	〇〇建設	添付9: 〇〇工事の出来形管理資料	参考5: 九州地方整備局H23出来形管理基準および規格値
	大、中項目はさわらないようにする。	・完成物としてどんな書類があるかを記述する。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・実際に管理した内容、数値等を記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③の数値等が確認された工事名や条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された社名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。

◆ 記載例 様式 3 ◆

評価項目			申請者記入欄							備考
大	中	小	①現行基準等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名・番号 (根拠データ等)	⑧基準等の引用もと
	合理化	工程	---	---	1日/100m ²	向上 (従来は2日/100m ²)	コンクリート床版100m ² の比較工程表	自社確認	添付10:比較工程表	---
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	-工程や製作日数等の項目とする。	-準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。 -準拠した数値等がなければ「-」とする。	-③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 -①が「-」の場合は「-」とする。	-様式2の工程で記述した日数を記述する。	-様式2の工程で記述した日数を記述する。 -従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	-工程を算出した根拠の条件や資料を記述する。	-③、④の数値等が確認された社名を記述する。 -自社で確認していれば「自社確認」とする。	-③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	-①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。 -添付のコピーは表紙も含めて添付する。
	現場条件	現場条件	---	---	作業スペースとして○○m×○○m程度必要	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○施工マニュアル	---
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	-現場条件とし、他に条件があれば記述可能である。	-準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	-③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	-様式2の現場条件を記述し、その他条件があれば記述可能である。	-従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	-現場条件の根拠や条件が記載されている資料を記述する。	-③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	-③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	-①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
	適用範囲	適用可能な範囲	---	---	コンクリート床版	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○施工マニュアル	---
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	-適用可能な範囲とし、他に適用範囲等があれば記述可能である。	-準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	-③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	-様式2の適用可能な範囲を記述し、その他適用範囲があれば記述可能である。	-従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	-適用可能な範囲の根拠や条件が記載されている資料を記述する。	-③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	-③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	-①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
	自然条件	自然条件	---	---	4℃~40℃	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○施工マニュアル	---
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	-自然条件とし、他に条件があれば記述可能である。	-準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	-③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	-様式2の自然条件を記述し、その他条件があれば記述可能である。	-従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	-自然条件の根拠や条件が記載されている資料を記述する。	-③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	-③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	-①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
	施工管理	○○の管理頻度	1径間あたり○箇所(自社基準)	適合	1径間あたり○箇所の確認	同等	○○工事の品質管理資料	○○建設	添付8:○○工事の品質管理資料	参考4:○○品質マニュアル
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	-上記の品質・出来形の「施工」で記述した項目の管理頻度とする。	-準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	-③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	-実際に管理した頻度等を記述する。	-従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	-③の数値等が確認された工事名や条件、規模等を記述する。	-③の数値等が確認された社名を記述する。	-③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	-①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。
	難易度	熟練工への依存度	---	---	専門技術者は不要で普通作業員で施工可能	同等	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○施工マニュアル	---
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	-熟練工の依存度とする。	-準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	-③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	-専門技術者や何かの有資格者でなければ施工できないのかを記述する。	-従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	-③で専門技術者や有資格者が必須とする根拠が記載された資料を記述する。	-③の記述が確認できる資料の発行元を記述する。	-③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	-①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。

◆ 記載例 様式 3 ◆

評価項目			申請者記入欄							備考	
大	中	小	① 現行基準値等	② 現行基準との比較<結果>	③ 申請技術について実証により確認した数値等	④ 従来技術との比較<結果>	⑤ 申請技術の数値採取条件	⑥ 実証方法・機関	⑦ 添付資料名・番号 (根拠データ等)	⑧ 基準値等の引用もと	
環境	社会環境	環境に影響する有害性	---	---	環境に影響する有害性はない	同等	安全データシート	自社確認	添付12:安全データシート	---	
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	環境に関する項目とする。 ・(例)水質、土壌、大気、振動・騒音、リサイクル、等の項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。 ・準拠した数値等がなければ「-」とする。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。 ・①が「-」の場合は「-」とする。	・無害である内容を記述する。また、振動・騒音であれば数値を記述し、リサイクルであれば、リサイクルの具体的な内容を記述する。 ・様式2で「環境」が向上となっていれば、その裏付けを記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③を確認できる資料(MSDS)等の名称や、試験の条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。 ・添付のコピーは表紙も含めて添付する。	
	作業員環境	作業員への負荷程度について	---	---	製品が軽重で作業が容易	向上(従来は重量が○○kgで作業が重労働であった)	施工マニュアル	自社確認	添付11:○○施工マニュアル	---	
【記載の留意点】	大、中項目はさわらないようにする。	作業員の作業環境や施工性に関する項目とする。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・作業環境や施工性について記述する。 ・様式2で「施工性」が向上となっていれば、その裏付けを記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③を確認できる資料等の名称や、試験の条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。	
その他(自由設定例)品質・出来形(完了後○○年経過後)	完成物	美観	○○年経過後においても構造物の美観を維持する。	適合	完成から○○年経過後でも△△部にひび割れが無く、美観は保たれている事を確認した。	向上(従来技術は○○年経過後には△△部にひび割れが発生)	○件の施工実績より	自社確認	添付13:現地確認結果一覧表	自社基準	
【記載の留意点】	大、中項目は任意に設定する。	技術特性に応じた新たな項目を設定する。	・準拠した基準等があれば数値やコメントを記述する。	・③の数値が①を満足していれば適合とし、満足していなければ不適合とする。	・美観を維持している内容を記載する。 ・様式2で「完成後の美観」といった記載があれば、その裏付けを記述する。	・従来と比較して「向上・同等・低下」を記述し、理由も()に記述する。	・③を確認できる資料(MSDS)等の名称や、試験の条件、規模等を記述する。	・③の数値等が確認された機関名を記述する。 ・自社で確認していれば「自社確認」とする。	・③の確認できる添付番号と資料名を記述する。	・①で準拠した資料のコピーを参考資料として添付し番号、資料名を記述する。	
その他(自由設定)※申請内容を踏まえ評価項目を設定下さい											
【記載の留意点】	大、中項目は任意に設定する。										
その他	独自基準等の有無	技術指針、設計基準等	有(無)他(○○○施工マニュアル、○○○品質マニュアル)								
【記載の留意点】	大、中、小項目はさわらないようにする。		・技術指針、設計基準等が独自のものがあれば「有」を○で囲み、()内に名称を記述する。 ・ない場合は、「無」を○で囲み、()								
		積算基準等	有(無)他()								
【記載の留意点】	大、中、小項目はさわらないようにする。		・積算基準等が独自のものがあれば「有」を○で囲み、()内に名称を記述する。 ・ない場合は、「無」を○で囲み、()								
		施工管理基準等	有(無)他()								
【記載の留意点】	大、中、小項目はさわらないようにする。		・施工管理基準等が独自のものがあれば「有」を○で囲み、()内に名称を記述する。 ・ない場合は、「無」を○で囲み、()								
		その他									
【記載の留意点】	大、中、小項目はさわらないようにする。		・申請者がアペールしたい事があれば記述する。								

◆ 記載例 様式 4 ◆

この様式に記載された事項は新技術活用評価会議の参考資料として使用されます (NETISへの登録及び外部への公表は行いません)

← 削除しない

比較表

技術名：○○○○

様式4

	新技術	従来技術	既存のNETIS登録技術 (できれば従来技術の同じ技術を選定する)	既存のNETIS登録技術
	○○○○	□□□□□□	△△△△	
【記載の留意点】	・様式2での技術名称を記述する。	・様式2の「活用の効果」で比較する従来技術の名称を記述する。	・NETIS掲載技術の技術名称を記述する。	・複数あれば枠を追加記述する。 ・複数の場合は、ヒアリング時に相談する。
工法概要	(様式2のアブストラクトを記載する) 本製品は○○○○を○○○○○○○○とするもので、従来は□□□□□□□□に対応していた。本製品の活用により工期短縮が図られ、品質の向上が期待できる	(従来技術の概要を記載する) 本製品は○○○○を○○○○○○○○した製品である	(様式2のアブストラクトを記載する) 本製品は△△△△を△△△△△△△△とするもので、従来は□□□□□□□□に対応していた。本製品の活用によりコスト削減が図られ、施工性の向上が期待できる	
【記載の留意点】	・様式2のアブストラクトを記述する。	・アブストラクト程度の内容で記述する。	・様式2のアブストラクトを記述する。 ・記載内容は記載情報の修正等は行わず記述する。	
概略図	<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 60px; margin: 0 auto;"></div> <p style="text-align: center;">概要写真およびイメージ図</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 60px; margin: 0 auto;"></div> <p style="text-align: center;">概要写真およびイメージ図</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 60px; margin: 0 auto;"></div> <p style="text-align: center;">概要写真およびイメージ図</p>	
【記載の留意点】	(様式2の写真及び図を利用する) ・様式2の概要写真およびイメージ図を利用する。 ・従来技術と比較できるような概要図とする。	(従来技術の説明写真及び図を付ける) ・従来技術の説明できる程度の概要写真およびイメージ図とする。 ・新技術と比較できるような概要図とする。	(様式2の写真及び図を利用する) ・様式2の概要写真およびイメージ図を利用する。	
経済性	(様式2の経済性の金額を記載する) 90,000円/100㎡	(様式2の経済性の金額を記載する) 100,000円/100㎡	(新技術と同数量で金額を記載する) 200,000円/100㎡	
評価	○	-	×	
【記載の留意点】	・様式2の経済性の金額を記述する。 ・ランニングコストがある場合は、イニシャルコストと2段書きにする。 ・評価については、従来技術と比較した結果、「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。 ※「著しく向上◎」の定量的な評価が難しいと思われるので、向上していれば「向上○」を記述する。	・様式2の経済性の金額を記述する。 ・ランニングコストがある場合は、イニシャルコストと2段書きにする。 ・評価については「-」とする。	・新技術と同一数量で金額を記述する。 ※新技術との同一数量で積算できない場合は開発者にヒアリングを行って記述する。但し、積算できないと回答があった場合には、その旨を書面に相談窓口へ提出する。 ・ランニングコストがある場合は、イニシャルコストと2段書きにする。 ・評価については、従来技術と比較した結果、「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。 ※「著しく向上◎」の定量的な評価が難しいと思われるので、向上していれば「向上○」を記述する。	
工程・工期	(様式2の工程の日数を記載する) 1日/100㎡	(様式2の工程の日数を記載する) 2日/100㎡	(新技術と同数量で工程の日数を記載する) 1日/100㎡	
評価	○	-	△	
【記載の留意点】	・様式2の工程の日数を記述する。 ・評価については同上	・様式2の工程の日数を記述する。 ・評価については同上	・新技術と同一数量で工程の日数を記述する。 ※新技術との同一数量で工程算出ができない場合は開発者にヒアリングを行って記述する。但し、工程算出ができないと回答があった場合には、その旨を書面に相談窓口へ提出する。 ・評価については同上	

◆ 記載例 様式 4 ◆

品質・出来形	(様式2の活用の効果(品質)、又は出来形に関する内容を記載する) 強度が向上し、長期耐久性が期待できる 〇〇N/mm ²	(従来の品質を記載する) 〇〇N/mm ²	(様式2の活用の効果(品質)を記載する) 〇〇N/mm ²	
評価	○	-	○	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「活用の効果」品質の内容を記述する。 ・新技術の出来形管理項目等を記述する。 ・新技術の精度や正確さ等を記述する。 ・評価については、従来技術と比較した結果、「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。(不明な場合は「-」とする) ※「著しく向上◎」の定量的な評価が難しいと思われるので、向上していれば「向上○」を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述された品質と整合させ記述する。 ・新技術で記述された出来形管理項目等と整合させ記述する。 ・新技術で記述した精度や正確さ等と整合させ記述する。 ・評価については「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「活用の効果」品質の内容を記述する。 ・技術の出来形管理項目等を記述する。 ・技術の精度や正確さ等を記述する。 ・評価については、従来技術と比較した結果、「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。(不明な場合は「-」とする) ※「著しく向上◎」の定量的な評価が難しいと思われるので、向上していれば「向上○」を記述する。 	
現場条件	(様式2の現場条件を記載する) 作業スペースとして5m×10m程度必要	(従来の現場条件を記載する) 作業スペースとして5m×10m程度必要	(様式2の現場条件を記載する) 作業スペースとして5m×15m程度必要 25tクレーンを使用するための設置スペースが必要	
評価	△	-	△	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の現場条件を記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述された現場条件をと整合させ記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の現場条件を記述する。 ・評価については同上 	
設計条件	(様式2の留意事項(設計時)を記載する) コンクリート標準示方書を準拠した設計となる	(従来の設計条件を記載する) コンクリート標準示方書を準拠した設計となる	(様式2の留意事項(設計時)を記載する) 特になし	
評価	△	-	△	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「留意事項」設計時の内容を記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した設計条件と整合させ記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「留意事項」設計時の内容を記述する。 ・評価については同上 	
安全性	(様式2の活用の効果(安全性)を記載する) 製品が軽量で施工時に手を挟み込む恐れがなくなる	(従来の安全性を記載する) 製品の重量が重く施工時に手を挟み込む恐れがある	(様式2の活用の効果(安全性)を記載する) 一括施工となるため人力での作業が少なく、危険性が軽減できる	
評価	○	-	○	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「活用の効果」安全性の内容を記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した安全性と整合させ記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「活用の効果」安全性の内容を記述する。 ・評価については同上 	
施工性	(施工における工程、適用条件、難易度などを記載する) 特別な有資格者並びに熟練工を配置しての施工は必要ない	(従来の施工における工程、適用条件、難易度などを記載する) 特別な有資格者並びに熟練工を配置しての施工は必要ない	(施工における工程、適用条件、難易度などを記載する) 特別な有資格者並びに熟練工を配置しての施工は必要ない	
評価	△	-	△	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・施工における工程、適用条件、難易度などを記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した施工性と整合させ記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工における工程、適用条件、難易度などを記述する。 ・評価については同上 	

◆ 記載例 様式 4 ◆

環境	(様式2の活用の効果(環境)を記載する) 騒音の低減効果がある	(従来の環境を記載する) 騒音の低減が期待できない	(様式2の活用の効果(環境)を記載する) 騒音の低減は期待できる	
評価	○	-	○	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「活用の効果」環境の内容を記述する。 ・技術によって得られる成果が、社会や作業員に与える影響などを記述する。 ・評価については、従来技術と比較した結果、「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。(不明な場合は「-」とする) ※「著しく向上◎」の定量的な評価が難しいと思われるので、向上していれば「向上○」を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した環境と整合させ記述する。 ・評価については「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様式2の「活用の効果」環境の内容を記述する。 ・技術によって得られる成果が、社会や作業員に与える影響などを記述する。 ・評価については、従来技術と比較した結果、「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。 ※「著しく向上◎」の定量的な評価が難しいと思われるので、向上していれば「向上○」を記述する。 	
その他 例)品質・出来形 (工事完了後)	(技術の特性に応じて記載する) ○○年経過後であっても△△部にひび割れが無く、構造物の美観を維持する	(従来の技術の特性に応じた内容を記載する) ○○年経過後に△△部にひび割れが発生する	(新技術の技術の特性に応じた内容を記載する) ○○年経過後であっても△△部にひび割れが無く、構造物の美観を維持する	
評価	○	-	○	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の特性に応じた内容を記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した技術の特性と整合させ記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した技術の特性と整合させ記述する。 ・評価については同上 	
その他 (自由設定)	(技術の特性に応じて追加記載する)	(従来の技術の特性に応じた内容を追加記載する)	(新技術の技術の特性に応じた内容を追加記載する)	
評価	○	-	△	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の特性に応じた内容を追加記載する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した技術の特性と整合させ記述する。 ・評価については同上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術で記述した技術の特性と整合させ記述する。 ・評価については同上 	
NETIS番号	-	-	QS-○○○○○○-A	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の場合は登録番号がありませんので「-」とする。 ・更新の場合は登録番号を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録番号がありませんので「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録番号がありますので必ず記述する。また、番号の後の「A」、「V」も必ず記述する。 	
備考				
総合評価	○	-	○	
【記載の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・備考にはその他記述内容があれば記載する ・総合評価は経済性からその他まで、従来技術と比較した結果、総合的に判断して「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備考にはその他記述内容があれば記載する ・総合評価については「-」とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備考にはその他記述内容があれば記載する ・総合評価は経済性からその他まで、従来技術と比較した結果、総合的に判断して「著しく向上◎、向上○、同等△、低下×」を記述する。 	

※ファイルの大きさは1MB程度となるようにして下さい。